

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について【概要】

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 平成31年4月18日（木）

(3) 調査の方法 悉皆調査

(4) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学 年	学 校 数	児 童 生 徒 数
小学校第6学年	公立小学校 277校	児 童 10,967人
	特別支援学校 3校	
	計 280校	
中学校第3学年	公立中学校 144校	生 徒 10,412人
	中等教育学校 1校	
	特別支援学校 5校	
	計 150校	

(5) 調査の内容

- ① 教科に関する調査（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語）
 - ・調査問題では、下記1)と2)を一体的に問う。
 - 1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - 2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
 - ・新たに中学校英語（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の調査が行われた。（3年に1回の調査）
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
【小学校…58項目 中学校…69項目】
 - イ 学校に対する調査（学校質問紙）
【小学校…64項目 中学校…80項目】

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する結果

① 全体の結果

○小学校では、国語は全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度であった。
○中学校では、国語、数学は全国平均を上回ったが、英語（「話すこと」調査を除く）は全国平均を下回った。

② 教科ごとの結果

（平成 29 年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は整数値で提供）

【小学校】

区分	平均正答率(%)	
	山口県	全 国
国語	68	63.8
算数	67	66.6

【中学校】

区分	平均正答率(%)	
	山口県	全 国
国語	74	72.8
数学	61	59.8
英語	55	56.0

(2) 児童生徒質問紙の結果

【望ましい状況】

○ 《子どもの意識》

ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがあると思う子どもの割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。

○ 《学習習慣・ICT》

授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う子どもの割合は、8割を超えており、全国より高い。

○ 《地域との関わり》

今住んでいる地域の行事に参加している子どもや、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある子どもの割合は、全国と比べて高く、増加傾向が見られる。

○ 《課題の解決に向けた主体的な取組》

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む子どもの割合は、全国と比べて高い。

【課題の見られる状況】

● 《子どもの意識》

将来の夢や目標を持っている子どもの割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向が見られる。

読書が好きだという子どもの割合は、全国と比べて同程度であるが、減少傾向が見られる。

● 《学習習慣・ICT》

学校の授業時間以外の、普段1日当たりの勉強時間は、2時間以上勉強する子どもの割合が増加傾向にあるものの、全国と比べて低い。

● 《中学校英語》

将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいという生徒の割合は、全国と比べて低い。

(3) 学校質問紙の結果

【望ましい状況】

○《教育課程》

横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成することや、子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたP D C Aサイクルの確立など、カリキュラム・マネジメントを行っている学校の割合が、全国と比べて高い。

○《学習指導》

学級での話し合いを生かして、一人ひとりの児童生徒が意思決定できるような指導を行う学校の割合や、I C Tを活用した授業を行う回数が、全国と比べて高い。

○《地域との関わり》

コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合が全国と比べて高い。

○《教員研修・教職員の取組》

近隣等の学校と授業研究を行うなど、合同して研修を行う学校の割合が全国と比べて高い。

【課題の見られる状況】

●《学習指導》

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫した学校の割合は全国と比べて高いものの、昨年度から減少傾向にある。

●《地域との関わり》

教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は全国と比べて高いものの、昨年度から減少傾向にある。

(4) 今後の対応

各学校の課題解決に向けた取組が具体化され、適切な実施が図られるよう、市町教委との連携を一層強化する。また、今後も「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤として、「学校の組織力の充実」、「教員の授業力の向上」、「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点から、それぞれの取組を推進するとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着と向上に向けて取り組む。

□ 「学校の組織力の充実」に向け、4月の全国調査と10月の山口県学力定着状況確認問題を活用した年間2回の検証改善サイクルに基づく取組の充実を図る。学力分析支援ツールを活用した結果分析や、成果と課題の共有、課題解決に向けた取組の改善や学力向上プランの見直し、カリキュラム・マネジメントなど、各学校の全校体制による取組を、学校訪問等により支援する。また、子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりを推進するため、学校の課題に応じた少人数指導など、少人数教育の充実を図る。

□ 「教員の授業力の向上」に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた各種研修会や研究指定校等の成果の普及を図る。また、地域内の学校を継続的に訪問・指導する市町教委の指導主事等と、思考力・判断力・表現力等の育成など、本県の学力課題を共有し、子どもたちが、学習したことを活用しながら、論理的に考え、説明する力を高めることができるよう、課題解決に向けた各学校の具体的な授業改善の取組を一層推進する。さらに、教員の資質・能力を高めるため、教科の専門性やキャリアステージに応じた研修の充実を図る。

□ 「学校・家庭・地域の連携力の強化」に向け、校種間での連携を推進し、各教科等の学習内容の系統性や指導方法の共通理解を図る。また、「やまぐち型地域連携教育」の仕組みを生かした、学校、家庭、地域の情報共有や地域人材による学習支援など、豊かな学びを支える学習環境づくりを進める。

3 資料

(1) 教科の結果

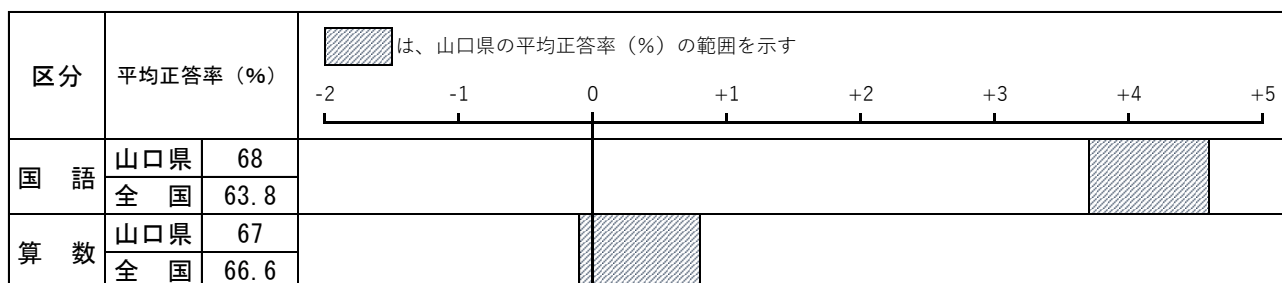
【平成31年度（令和元年度）各教科の結果】

○小学校

	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.5/14	8.9/14	68	63.8
算 数	9.4/14	9.3/14	67	66.6

(全国の平均正答率との比較)

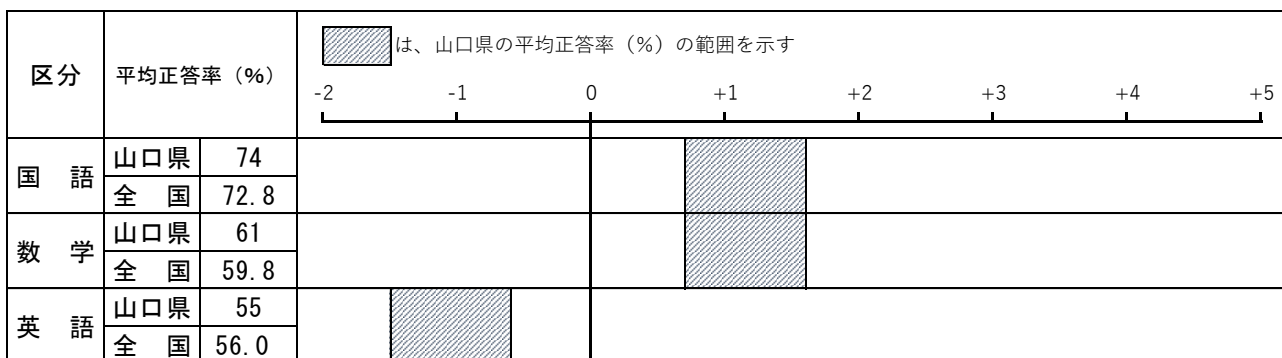
※ 平成29年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。



○中学校

	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	7.4/10	7.3/10	74	72.8
数 学	9.8/16	9.6/16	61	59.8
英 語	11.6/21	11.8/21	55	56.0

(全国の平均正答率との比較)



【参考】

平成30年度

○小学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	8.6/12	8.5/12	72	70.7
国語B	4.6/ 8	4.4/ 8	57	54.7
算数A	8.9/14	8.9/14	64	63.5
算数B	5.2/10	5.1/10	52	51.5
理 科	9.9/16	9.6/16	62	60.3

○中学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	24.6/32	24.3/32	77	76.1
国語B	5.5/ 9	5.5/ 9	61	61.2
数学A	24.2/36	23.8/36	67	66.1
数学B	6.5/14	6.6/14	46	46.9
理 科	18.0/27	17.9/27	67	66.1

平成29年度

○小学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.4/15	11.2/15	76	74.8
国語B	5.2/ 9	5.2/ 9	58	57.5
算数A	11.8/15	11.8/15	79	78.6
算数B	5.0/11	5.1/11	45	45.9

○中学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.4/32	24.8/32	79	77.4
国語B	6.6/ 9	6.5/ 9	73	72.2
数学A	23.9/36	23.3/36	66	64.6
数学B	7.4/15	7.2/15	49	48.1

平成28年度

○小学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.2/15	10.9/15	74.6	72.9
国語B	5.9/10	5.8/10	58.7	57.8
算数A	12.5/16	12.4/16	78.4	77.6
算数B	6.3/13	6.1/13	48.1	47.2

○中学校

区分	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.4/33	25.0/33	76.9	75.6
国語B	6.1/ 9	6.0/ 9	68.2	66.5
数学A	22.9/36	22.4/36	63.6	62.2
数学B	6.8/15	6.6/15	45.0	44.1

(2) 各教科ごとの結果

小学校国語

○平均正答率が68%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用にやや課題が見られる。

【相当数の児童ができている点】

- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること

【課題の見られる点】

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- 漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うこと

小学校算数

○平均正答率が67%であり、全国平均と同程度であるが、数学的な考え方や技能の定着に課題が見られる。

【相当数の児童ができている点】

- 台形について理解すること
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること

【課題の見られる点】

- 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること

中学校国語

○平均正答率が 74%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用には課題が見られる。

【相当数の生徒ができている点】

- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと
- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること

【課題の見られる点】

- 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと
- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること
- 封筒の書き方を理解して書くこと

中学校数学

○平均正答率が 61%であり、全国平均を上回っているものの、数学的な見方や考え方に課題が見られる。

【相当数の生徒ができている点】

- 平行移動の意味を理解すること
- 反例の意味を理解すること

【課題の見られる点】

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

中学校英語

○「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、平均正答率が 55%で、全国平均を下回っており、知識・技能の活用には課題が見られる。

【相当数の生徒ができている点】

- 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること
- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること

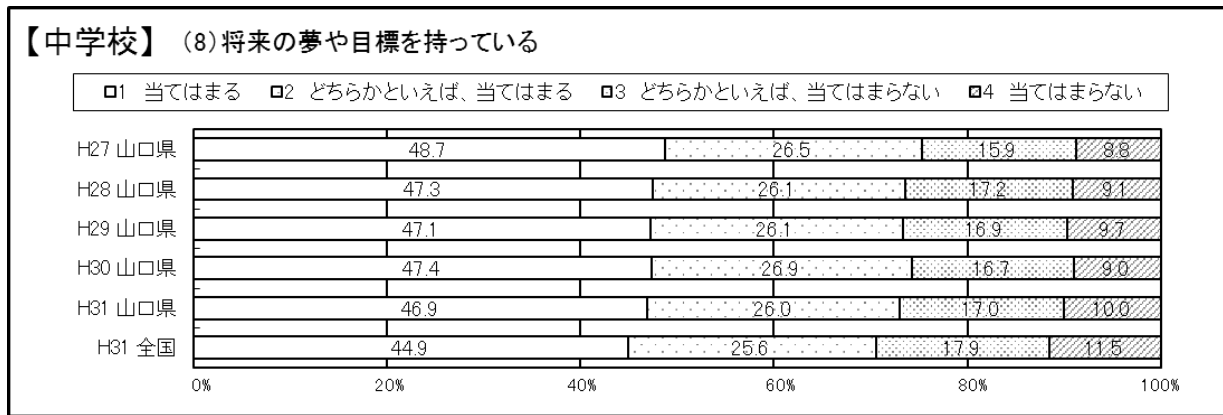
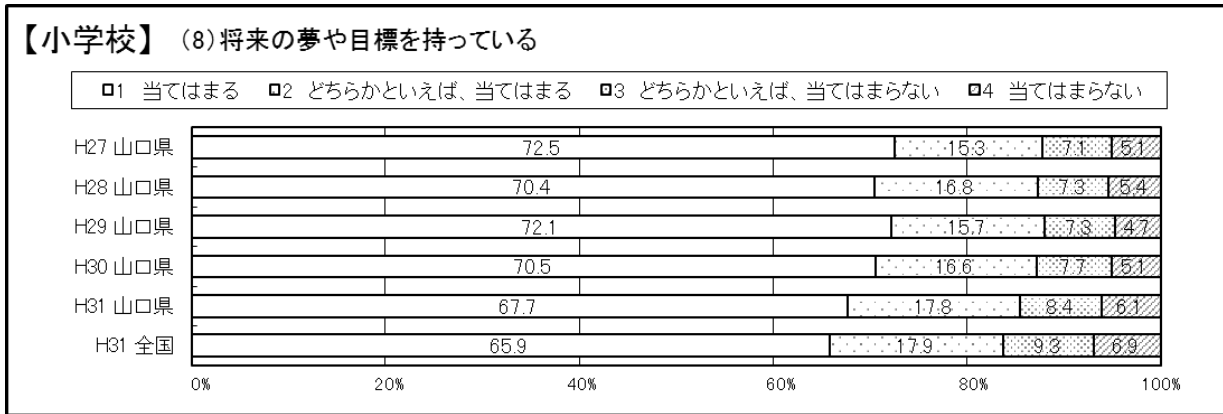
【課題の見られる点】

- 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと
- 聞いて把握した内容について、適切に応じること

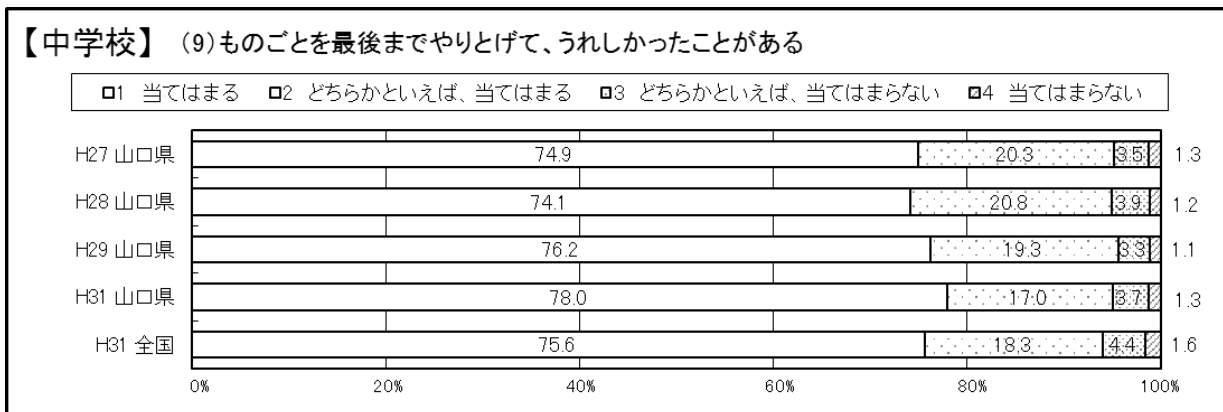
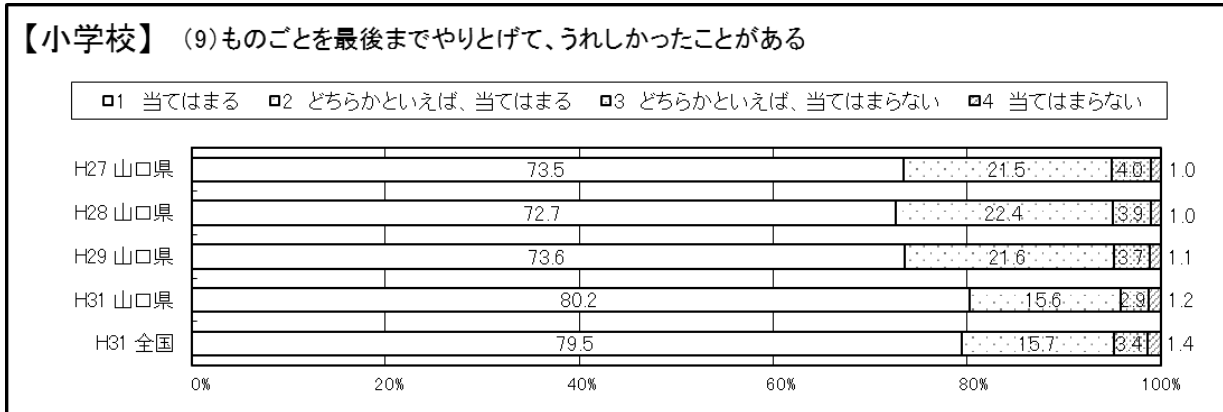
(3) 児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識

ア 将来の夢や目標を持っている

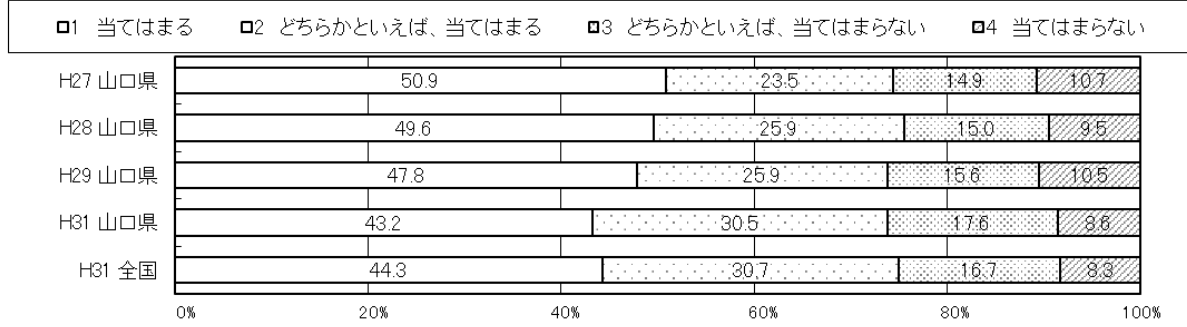


イ ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある

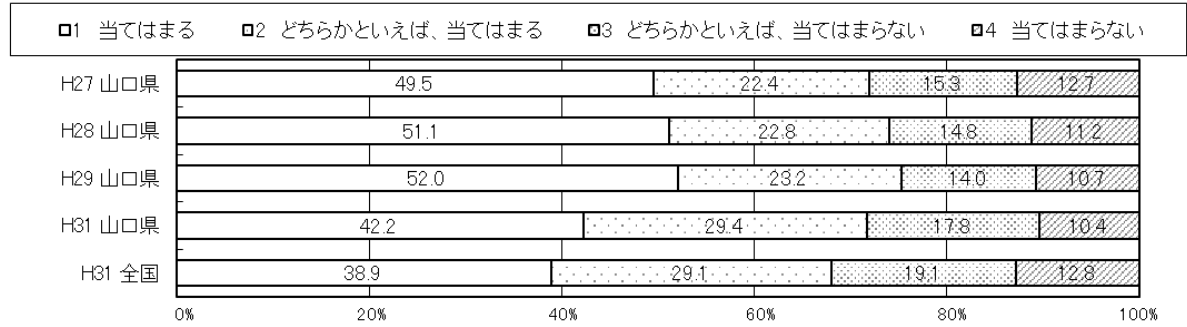


ウ 読書は好きだ

【小学校】 (21)読書は好きだ



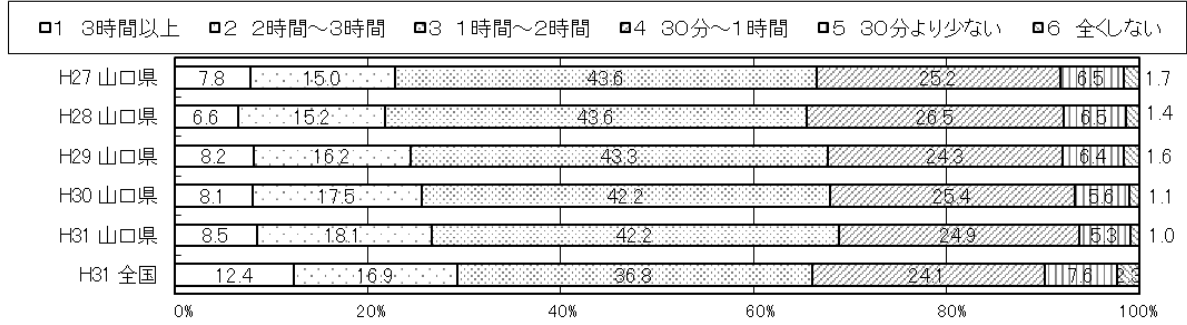
【中学校】 (21)読書は好きだ



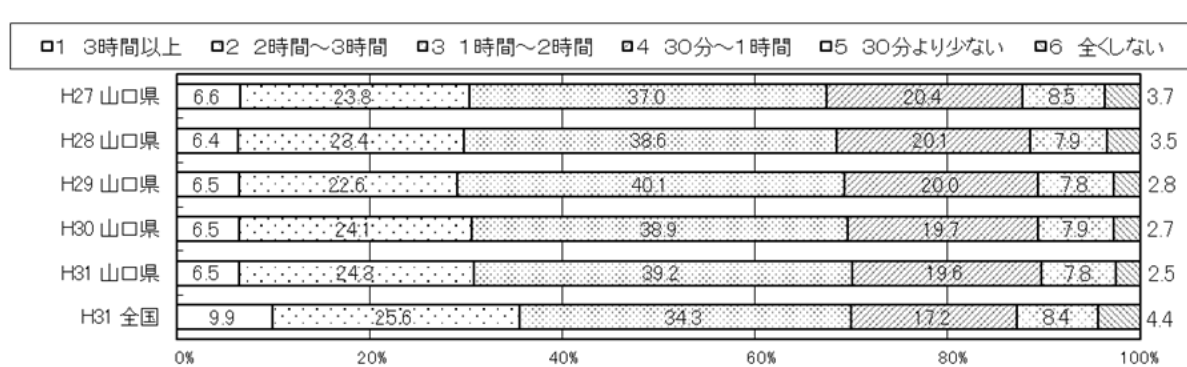
②学習習慣・ICT

ア 1日当たりの学習時間

【小学校】 (18)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか

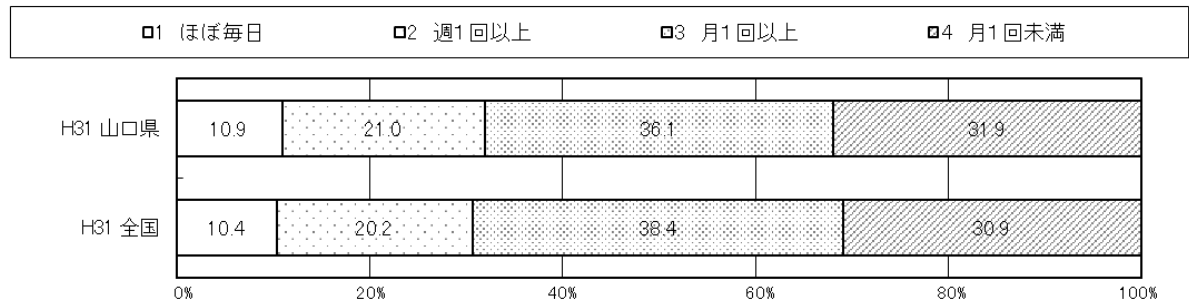


【中学校】 (18)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか

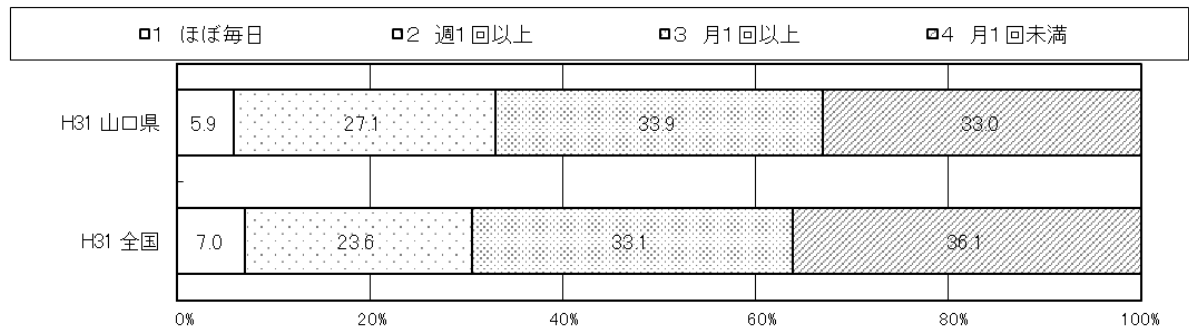


イ コンピュータやICTをどの程度活用したか

【小学校】 (27)5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使用したか

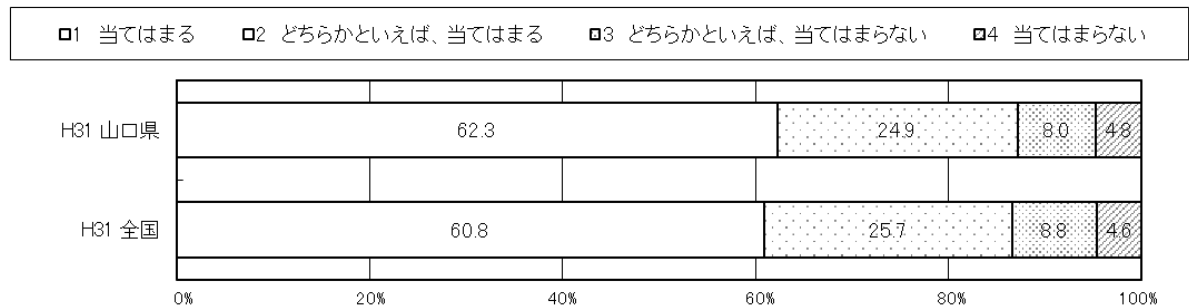


【中学校】 (30)1、2年のときに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使用したか

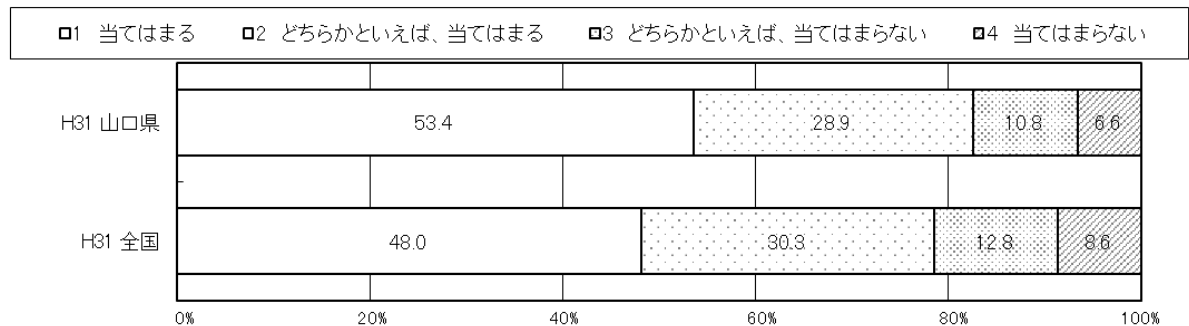


ウ 授業でもっとコンピュータやICTを活用したい

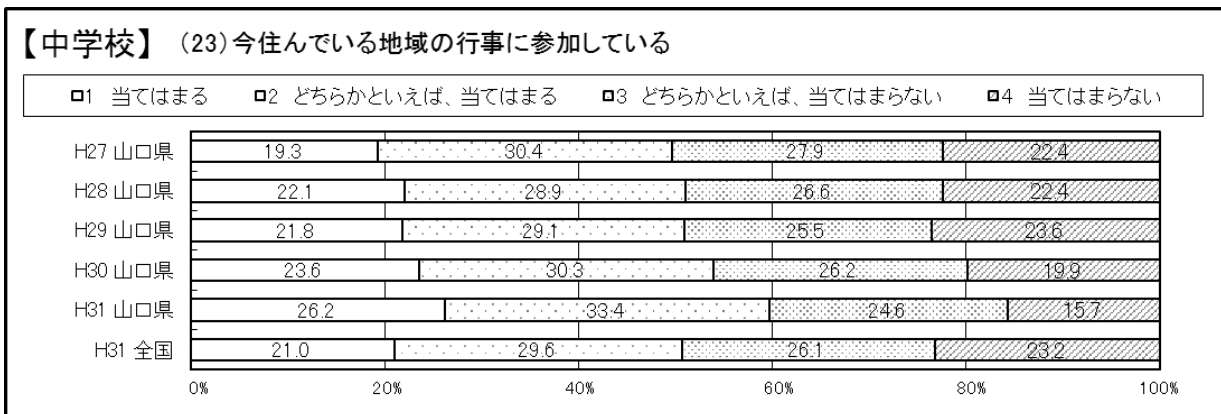
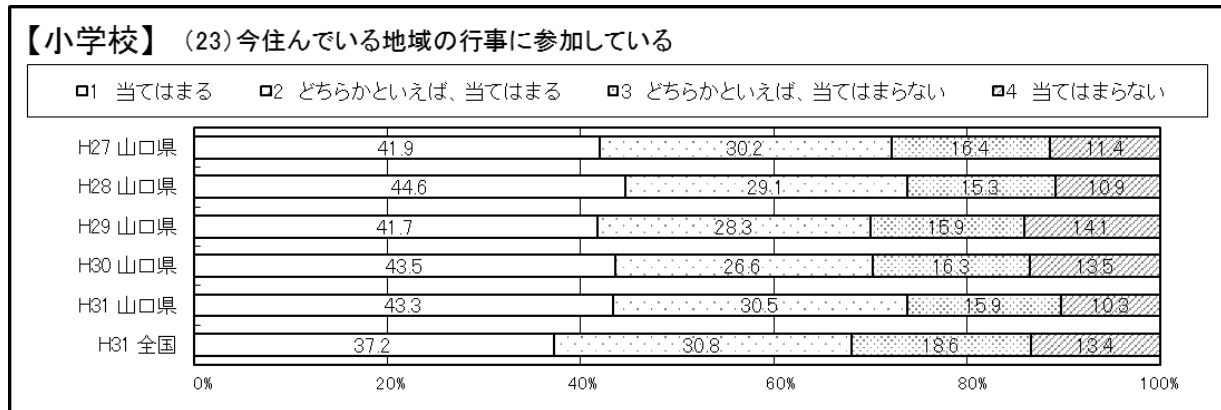
【小学校】 (28)授業でもっとコンピューターなどのICTを活用したいと思う



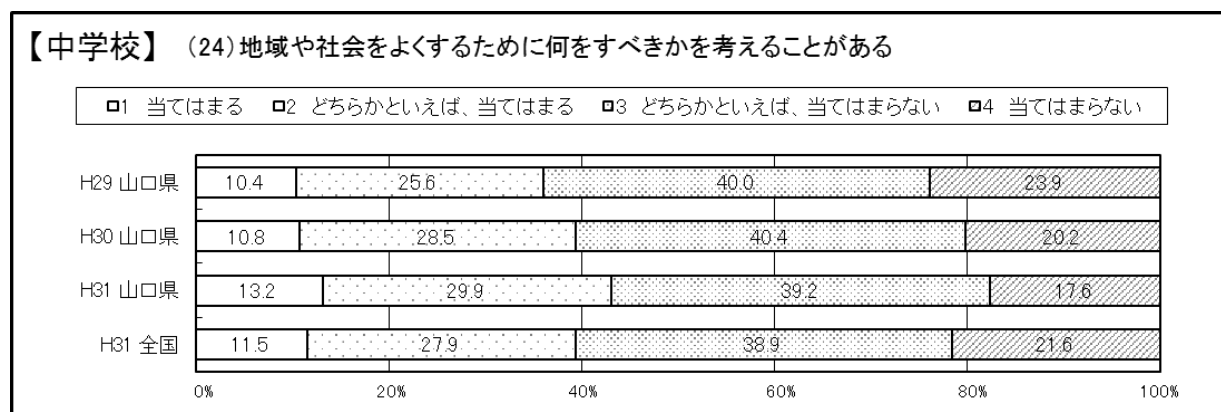
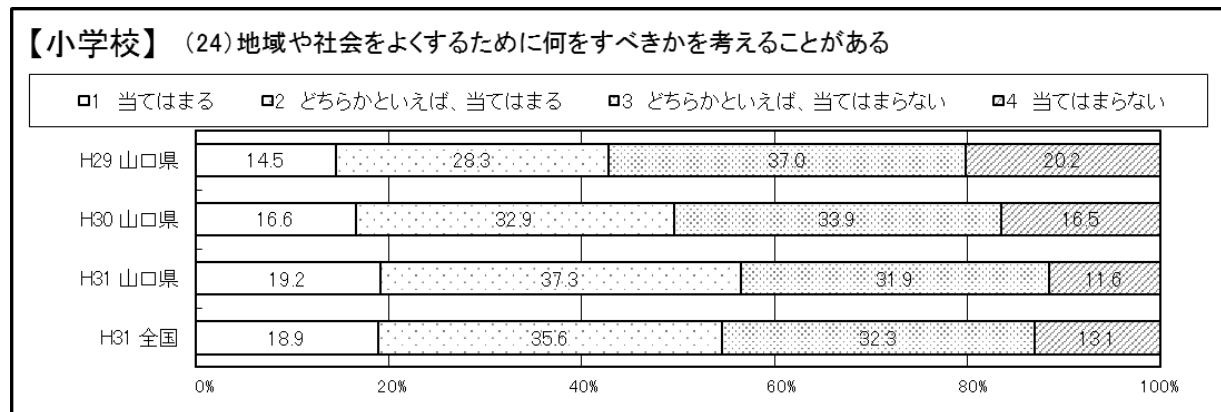
【中学校】 (31)授業でもっとコンピューターなどのICTを活用したいと思う



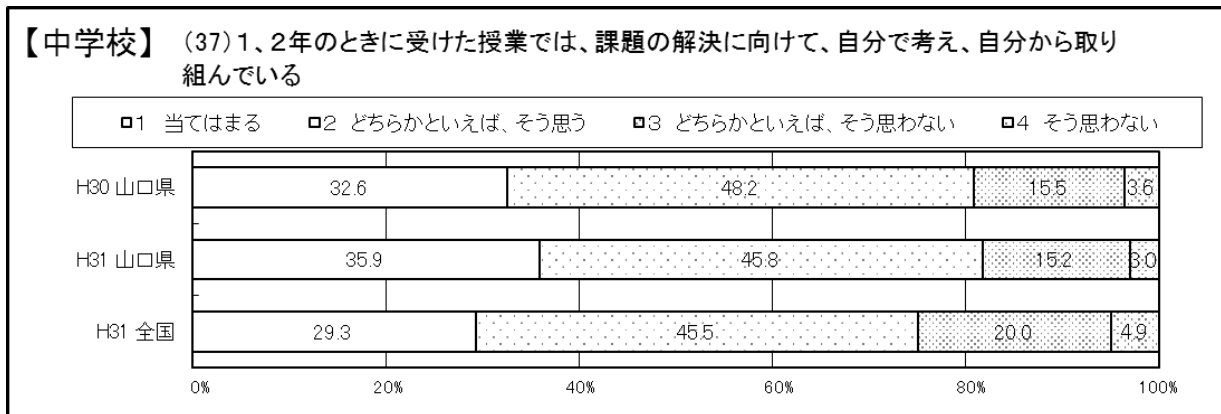
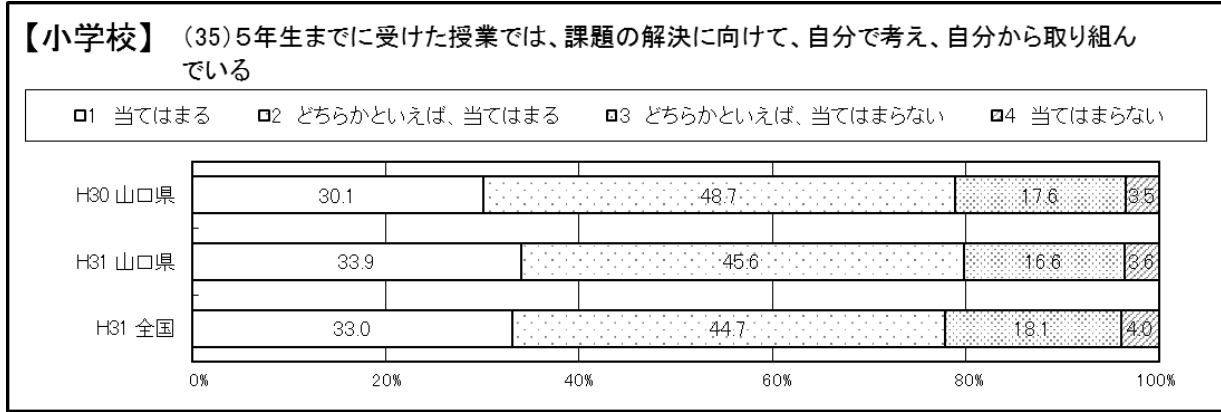
③地域や社会との関わり
ア 地域行事への参加



イ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている

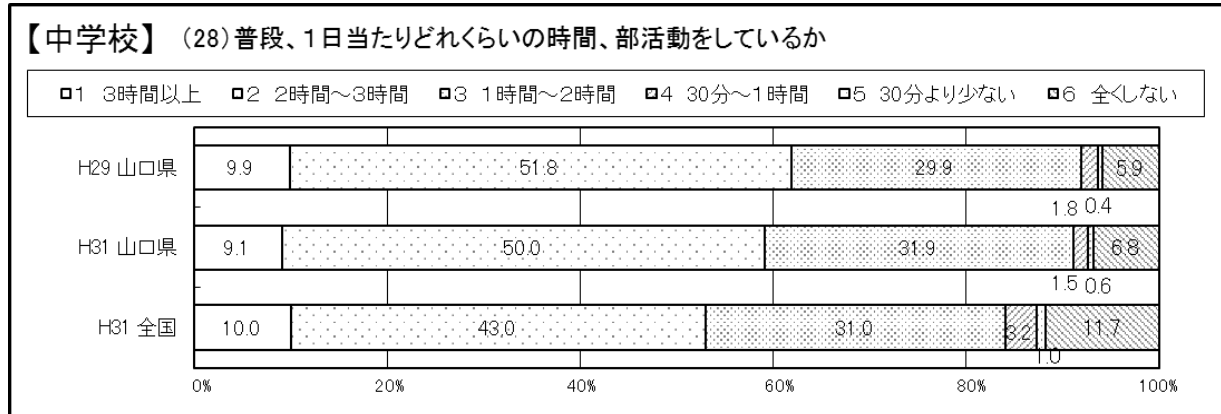


④ 課題の解決に向けた主体的な取組

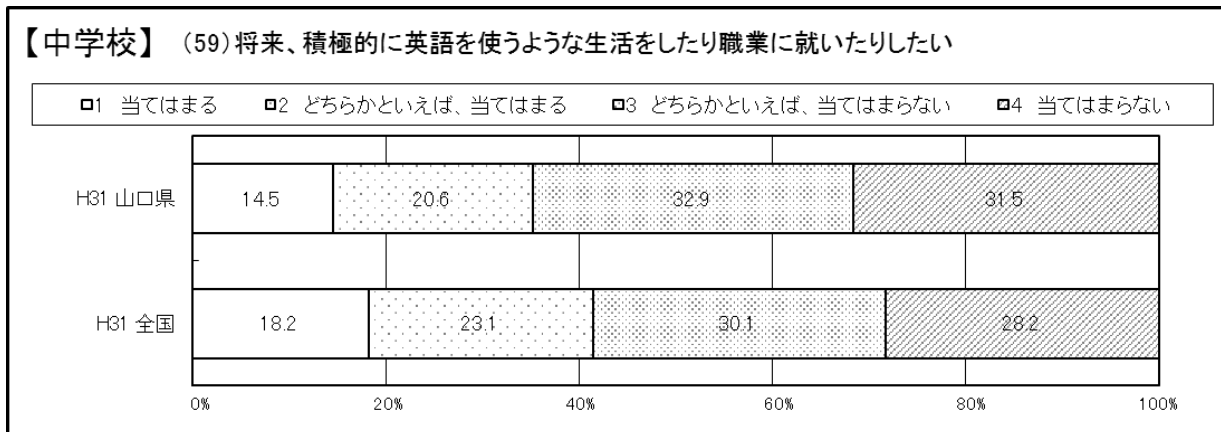


⑤ 中学校のみ (部活動・英語)

ア 1日当たりの部活動時間



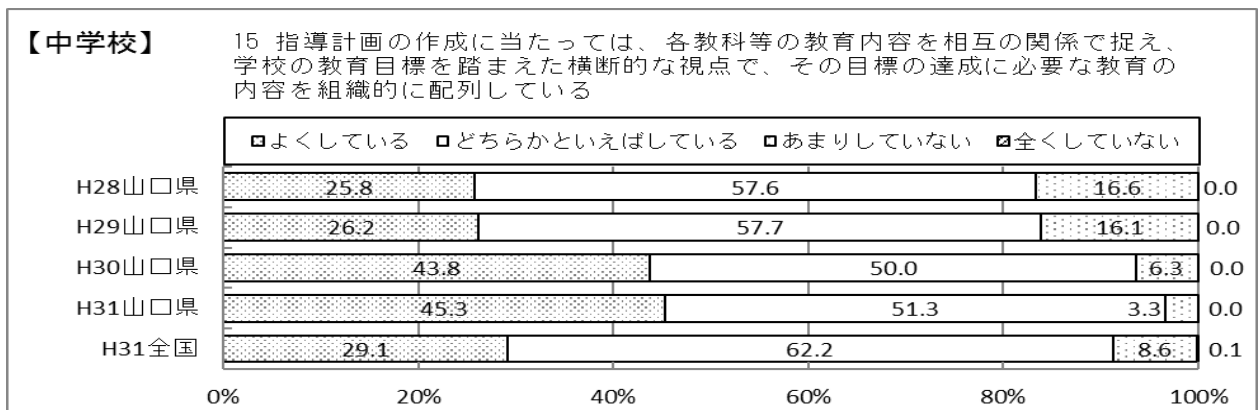
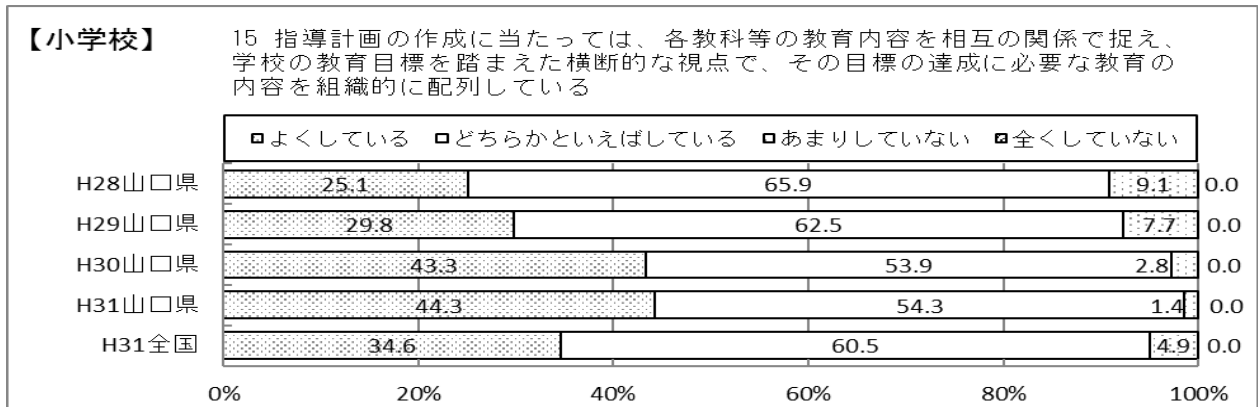
イ 将来、積極的に英語を使う生活や仕事をしたい



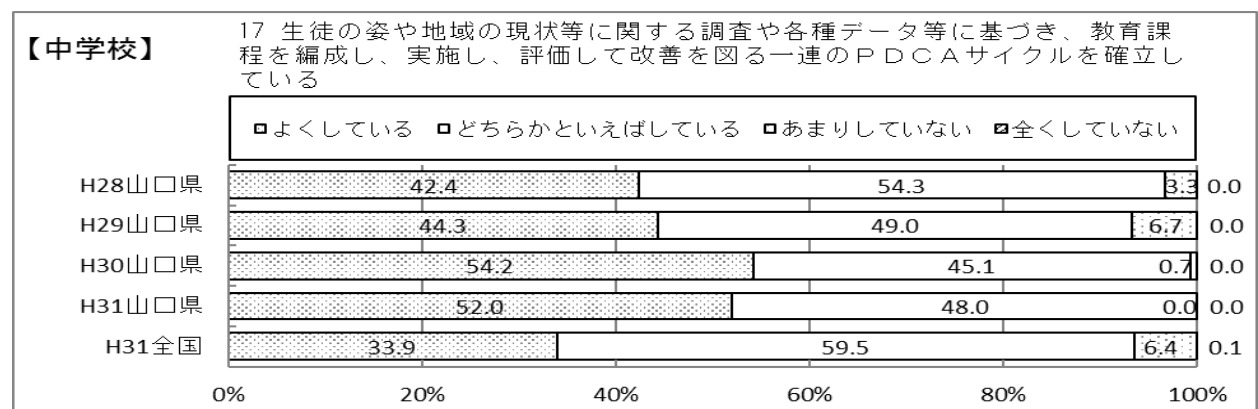
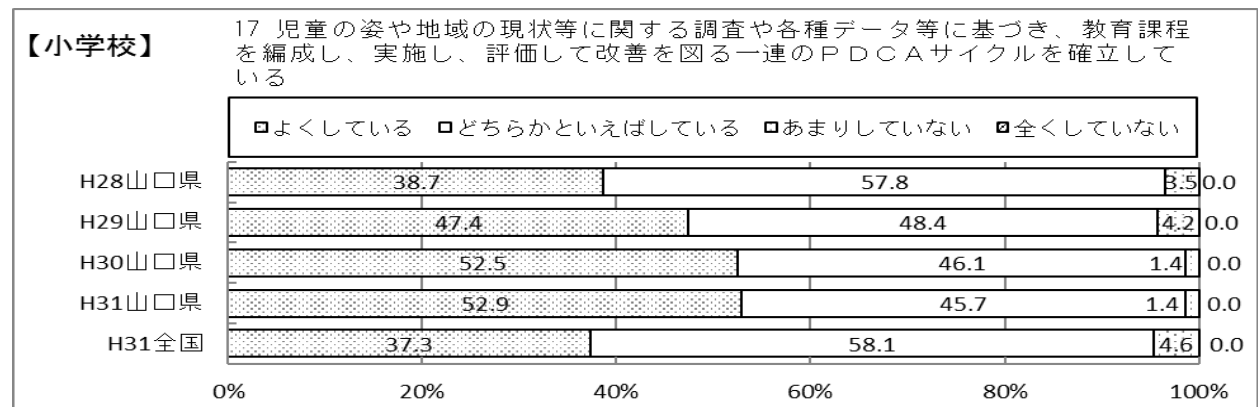
(4) 学校質問紙の結果

①教育課程

ア 横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成

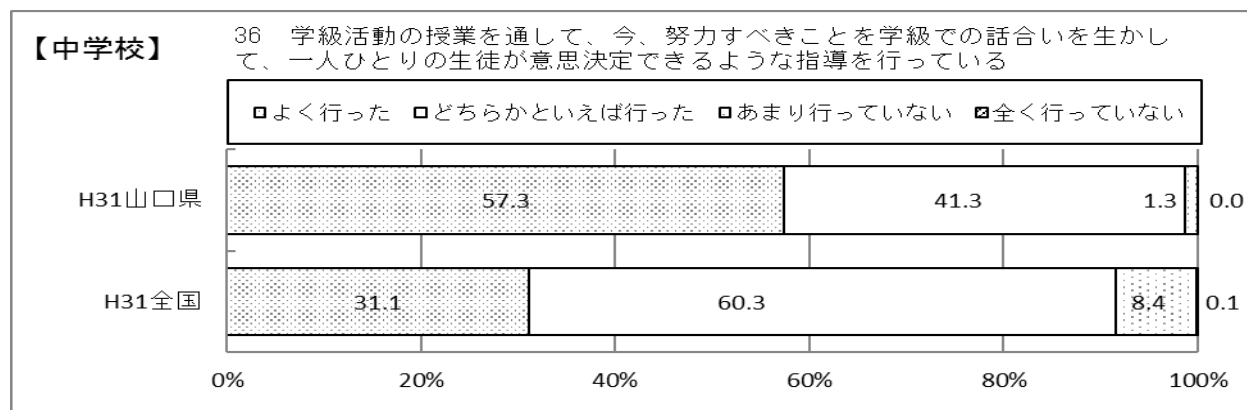
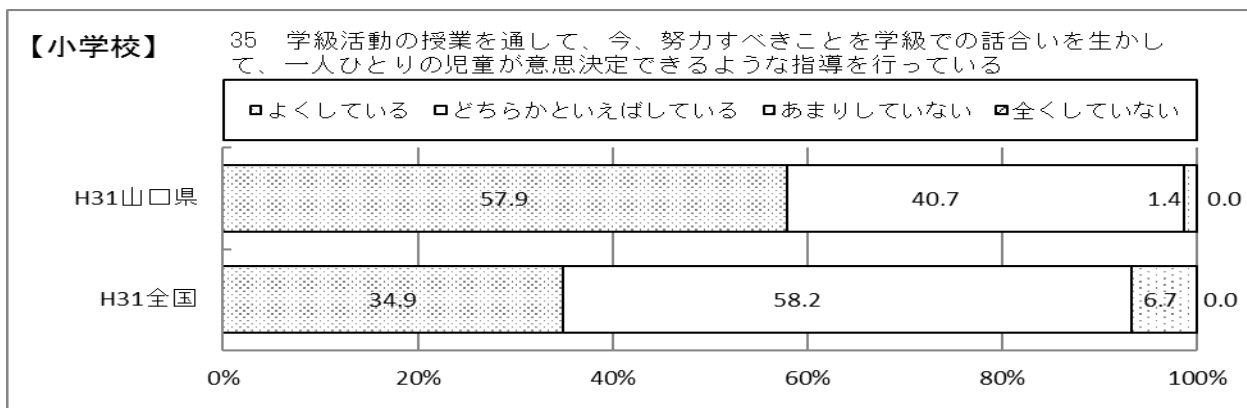


イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

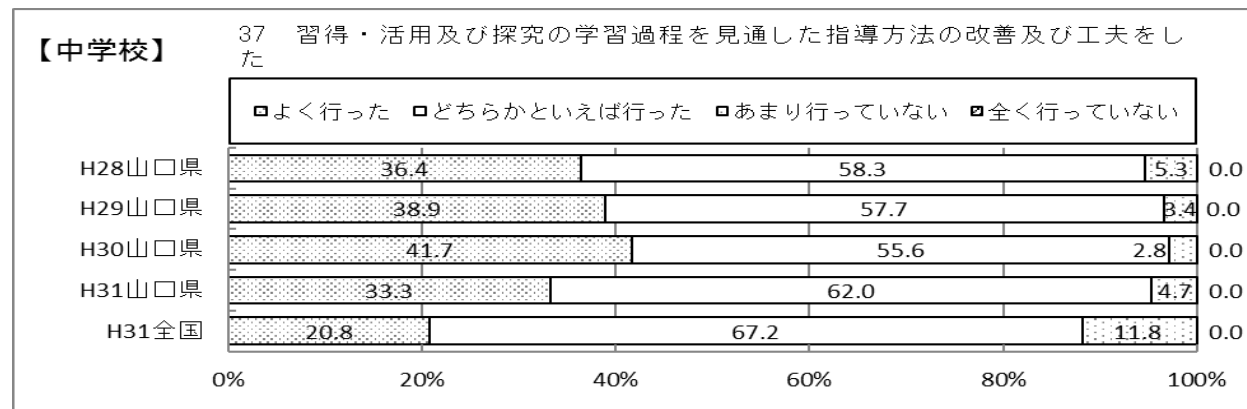
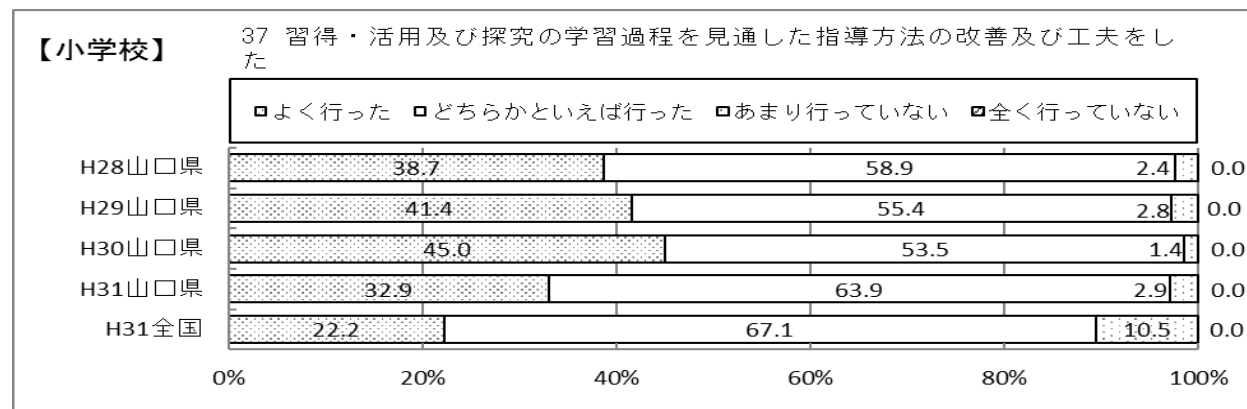


②学習指導

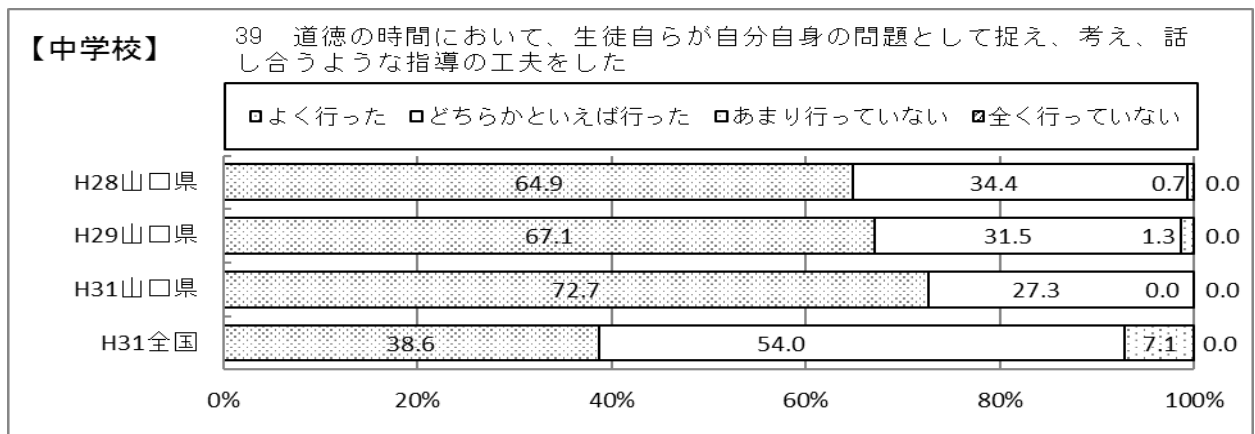
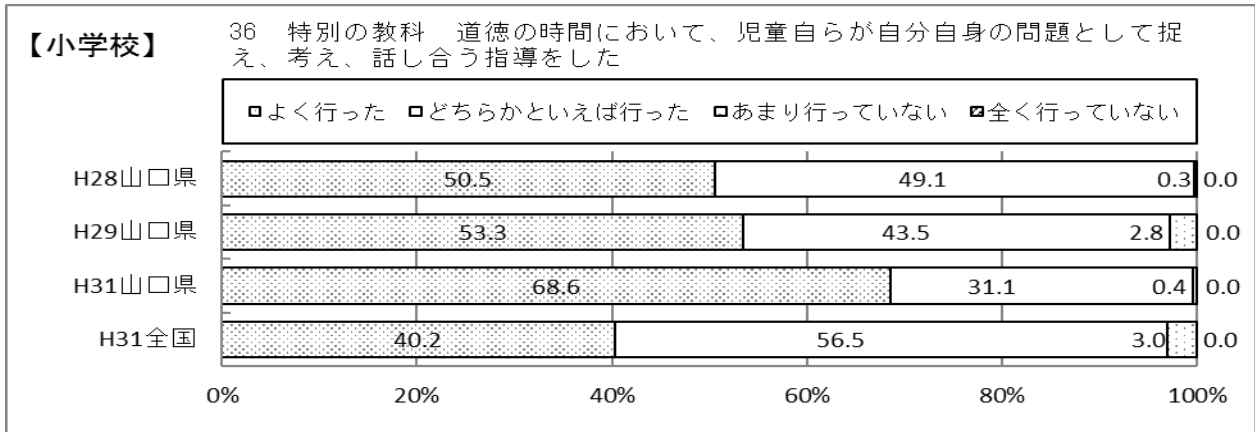
ア 学級での話し合いを生かした、一人ひとりが意思決定できるような指導



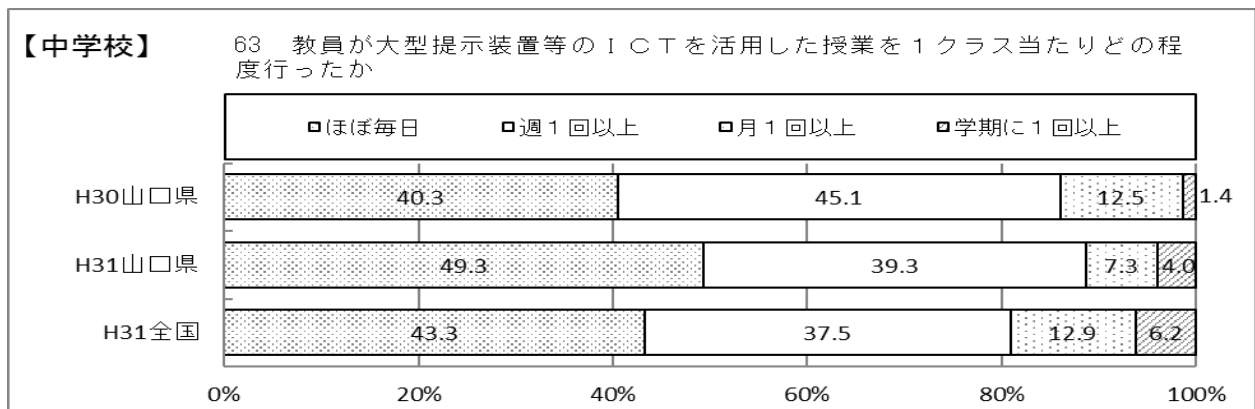
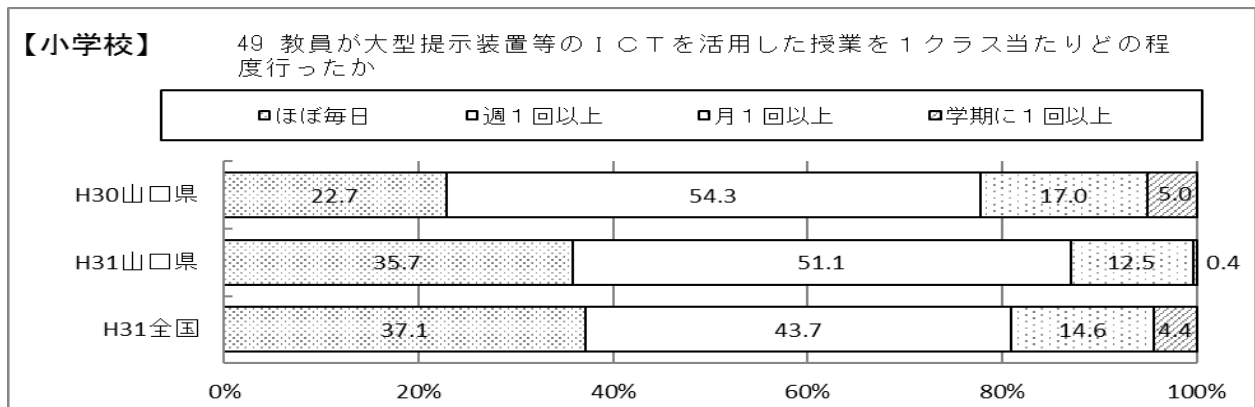
イ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫



ウ 道徳の時間

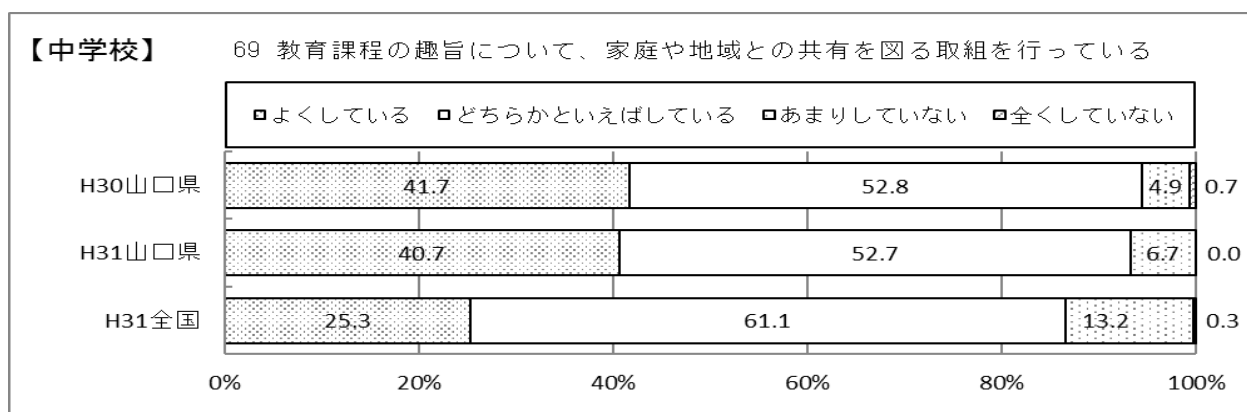
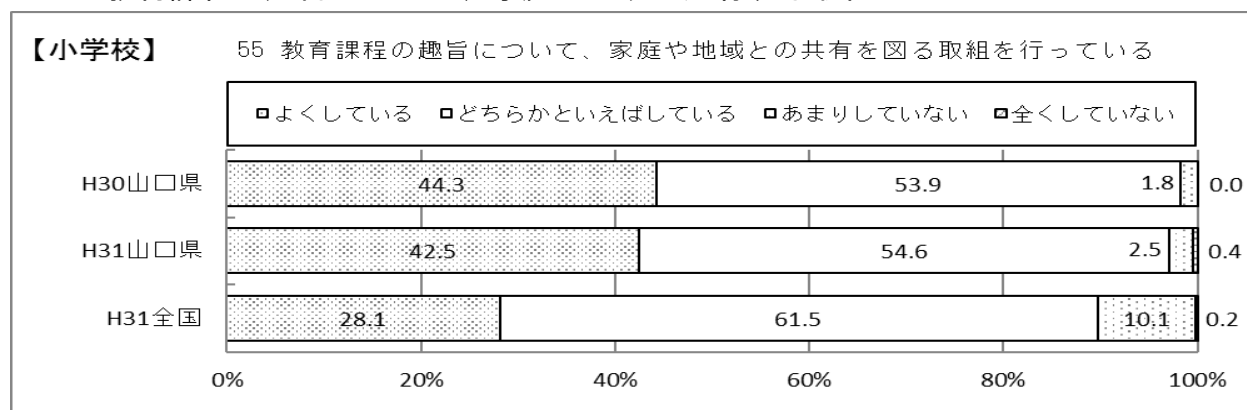


エ ICTを活用した授業

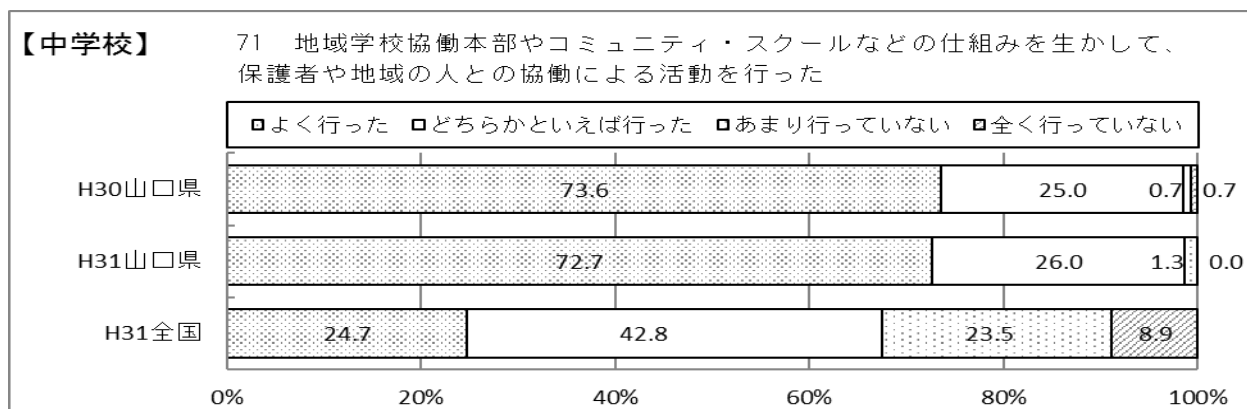
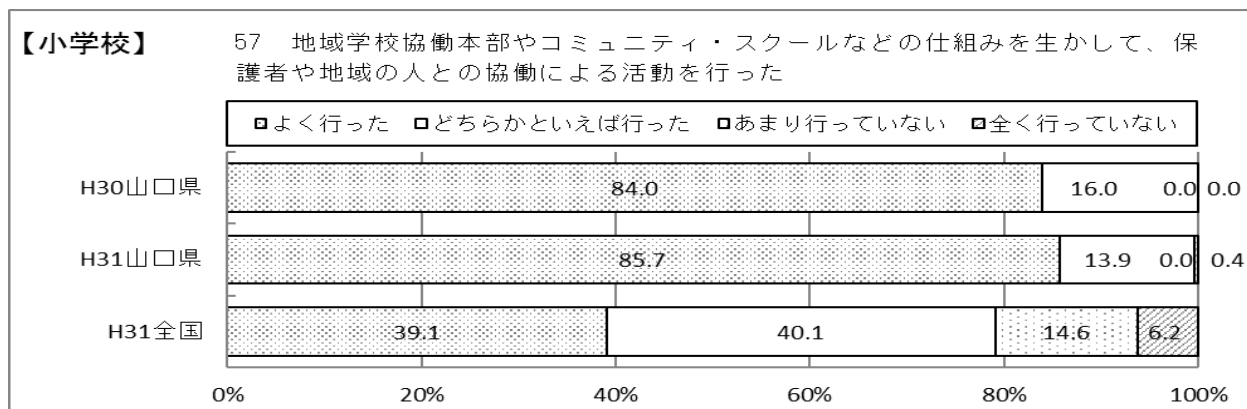


③家庭・地域との連携

ア 教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有する取組

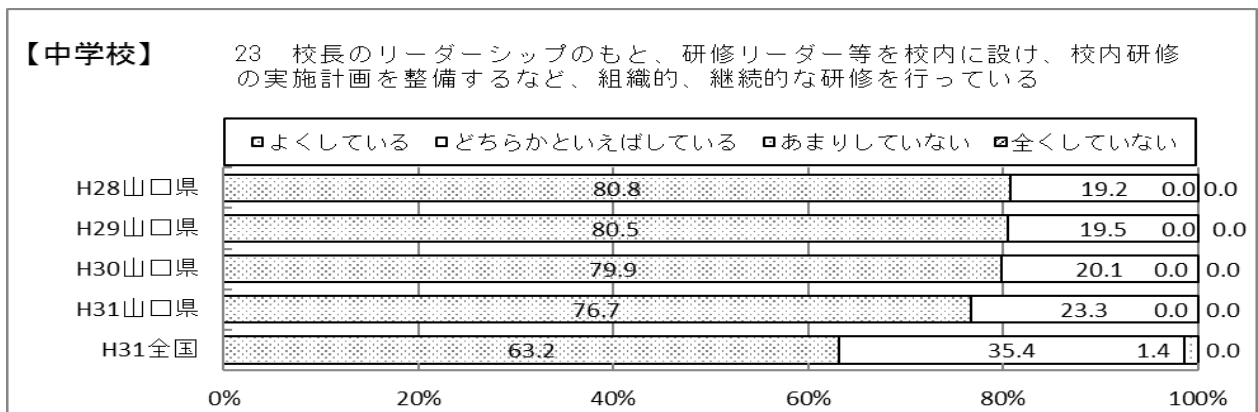
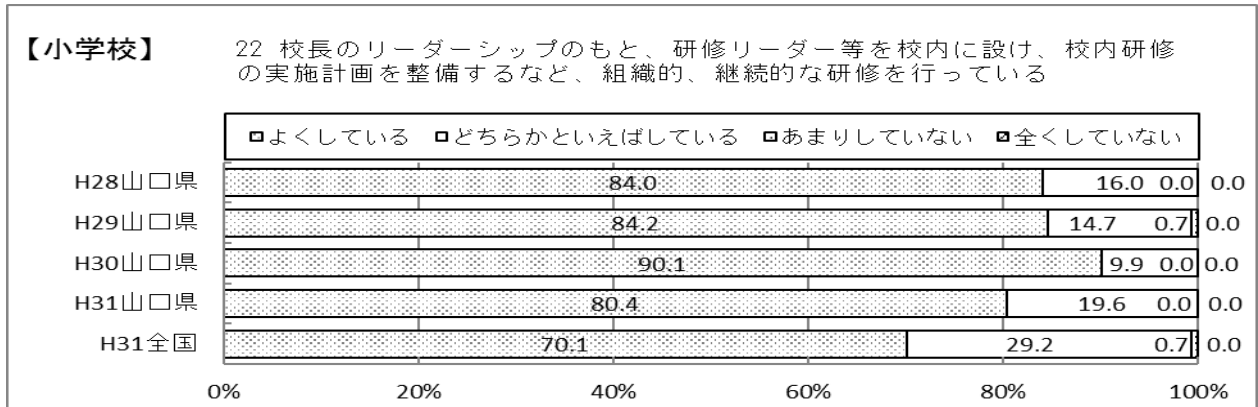


イ 保護者や地域との協働による活動



④教員研修・教職員の取組

ア 組織的、継続的な校内研修



イ 小中合同研修会の実施

